

## 大量の廃棄物山積み／近隣民家にも飛来 早期撤去への取り組み強化を

桐生市新里町内の民有地（4566㎡）に大量の廃棄物が山積みされている問題で、大沢綾子議員は6日、早期撤去に向けた県の取り組みを求めました。

廃棄物は2021年5月頃から搬入され、住民からの通報を受けた県と市がパトロールや現場での指導を行ってききましたが、いたちごっこが続いていました。テレビや新聞で報道された以降搬入は止まっていますが、積み上げられた廃棄物の重みで境界に立てた鉄板は傾き、多くの廃棄物が敷地西側の谷の下に落とされています。（写真）県は外国籍の土地所有者と接触ができておらず、関係者についても調査中という状況です。

大沢議員は、風が強い日には近隣の民家や道路の側溝にビニールなどのゴミが飛び住民が片づけていることや、廃置からとみられる「カビの臭いが気になる」という声を紹介しながら、「すでに住民生活に影響が出ている。早急に撤去させるのが環境行政の役目ではないか」と指摘し、措置命令や行政代執行も視野に入れた取り組みを求めました。



県不法投棄主監は、ほとんどが産業廃棄物とみられるとの見解を示したものの、「敷地の外に（廃棄物が）出ていく状況は見られない。措置命令は生活環境保全上の支障を除去するためのもの。現状で必要性は考えていない」と答弁。大沢議員は、「大雨や地震で谷に落とされている廃棄物流出の危険や、谷の下の水田への影響への不安も出されている。一日も早い撤去をとというのが住民の声だ」と述べて、取り組み強化を求めました。

## 東邦亜鉛非鉄スラグ／全量撤去めど立たず

現在撤去が進んでいる東邦亜鉛の非鉄スラグについて県は、新たな使用箇所も判明しておらず、撤去が残る箇所は大規模使用箇所が中心で完了までに一定の期間を要するため、四半期ごとだった公表を年1回に変更すると説明しました。

大沢議員が「公表が年1回になるということは、全量撤去が完了するまで数年単位でかかるという認識なのか」と質問したのに対し、廃棄物リサイクル課の答弁は、「記録がなく大規模使用箇所の全体量が把握できないため、完了時期は示せない」とこれまで同様にとどまりました。

## 県環境、県民の健康守るのが県の仕事

渋川市の古巻公民館予定地に放置されている大同特殊鋼の有害鉄鋼スラグについて、県は土壌対策汚染法にもとづく調査を市に指示し、必要な対策も市に丸投げ状態が続いています。大沢議員は、廃棄物処理法の目的には「生活環境保全上の支障が生じる`おそれ、があるときは、必要な措置を命ずることができる」と明記されていることを確認しながら、「スラグは廃棄物処分場で管理するはずのものではないのか。そもそも廃棄物認定したものをなぜ廃棄物処理法で対応しないのか。県の環境と県民の健康を守る立場で努力すべき」と指摘しました。